

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表	2020年3月31日	事業所名	ベストライフ株式会社 多機能型児童発達支援たんぼぼはうす
----	------------	------	------------------------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・教室内に学習スペースや個別スペースを確保し、集団活動と分けている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		・子どもの安全面を重視し配置基準より多く配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		・完全バリアフリーで段差なし。玄関にはスロープと手すりを設置している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		・会議で目標設定をし、実行する。1ヶ月ごとに振り返りと改善策を話し合い職員間で共有している。	・年に1回グループ全体で研究発表会を行い、目標設定し取り組んできた業務改善の内容を発表し評価する機会を設けている。職員全員で取り組んでいる。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・日頃の保護者面談とアンケートの集約から保護者の意向を把握し、職員間で共有している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・年に1回実施し、ホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・評価委員会の設置を検討している。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・外部の研修に積極的に参加している。 ・研修委員会を設置し、職員研修の年間計画を立てて、実行している。	・年に1回はグループ全体で困難事例の支援で色々な技法を使い取り組んだ研究を全事業所が発表し評価を行い、各事業所のスキルアップに役立てている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・利用開始前に必ずアセスメントを行い、計画を作成して保護者に同意を得ている。計画変更時には再アセスメントを行い課題分析している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・グループ内で放課後等デイサービス共通のアセスメントシートを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・活動プログラム、月案、週案を職員会議を開いて検討しつくっている。月案は各保護者に配布している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・色々なメニューのなかから固定化しない様に工夫して月案、週案を作成している。	・ビジョントレーニング、ライフキネスティック、音楽療法、外国人講師による英会話教室、ズンバ、机上トレーニング等を月案、週案の中に適切に取り入れている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・活動時間と子どもの特性を考え工夫している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		・机上訓練では、子どもの特性に応じて内容を個別に選択している、必要に応じて運動訓練の内容も個別にすることがある。 ・集団活動はみんなが取り組みやすいメニューを準備している	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・毎朝ミーティングを行い、支援内容・役割分担等を確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・その日の振り返りや日誌の記述を必ず行い、共有している。	
	17	日々の支援に関して正しい記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・毎日、日誌、引継ぎノートに記録、支援についての疑問点は管理者や専門職の職員に聞き解決している。	
	18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・6ヶ月ごとにモニタリングを行い、子どもの細かい変化に気づけるようにしている。 ・週案に目標の達成具合を記入し達成できた時は計画の見直しを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		・ガイドラインを基本としている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	・児童発達支援管理責任者と担任が参加している。		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○	・学校とは常に連絡調整を行っている。		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	* 現在対象児童なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		・担当者会議等で情報交換を行っている。	・就学サポートノートを活用していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		・情報提供をしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・外部の研修に積極的に参加している。 ・必要に応じ連携している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		・今後地域の行事に参加したり、学校との連携を図り機会を作っていく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○		・主に管理者が参加している。	・職員全員が積極的に参加できるような勤務体制を工夫する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・日々の連絡帳や送迎時に状況を伝えあっている。その他必要時に電話連絡をしている。保護者会や行事の時に話している。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		・自閉症スペクトラム支援士と特別教育支援士をもつグループ内の職員を中心に行っている。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・利用開始前に管理者が必ず行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・会議や保護者面談、普段の連絡帳等で随時対応している。 ・必要に応じ家庭を訪問し支援している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・年に2回保護者交流会を企画し交流を図っている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・対応の体制をマニュアル化して職員全員に周知している。 ・意見ボックスを設置している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・2ヶ月に1度クラスだよりを発行している。	・2020年度より月1回に変更する
	35	個人情報に十分注意している	○		・十分注意している。 ・クラス会議等で職員の意識統一を図っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・分かりやすい表示を使用したり伝え方を工夫している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・夏祭りに参加を呼びかけ、参加してもらっている。	・グループ全体での祭り等の行事を開催、地域住民の方や高齢者の方、障がいの方と触れ合うことで、児童の社会性を養うことにも役立っている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		・マニュアルは策定し全職員に周知している ・保護者にも説明を行っている。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・消防署に協力を依頼し、年に避難訓練を実施している。	・今後保護者の方にも参加してもらって訓練を行っていく予定
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・年に1回虐待研修を必ず行っている。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	・身体拘束の必要性について、今後職員間・保護者で周知する様にしていく。 *現在対象児童なし	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・アセスメント時に保護者と確認をとっている ・必要に応じ医師の指示書を持っている。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・ヒヤリハットは記録を必ずとり、職員間で振り返りを行っている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。